

タカラコラボラボ 第21回・第2期第4回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和8年(2026年)5月12日(火) 15:30~17:00
開催場所	3A会議室
次 第	1 開会 2 議事 (1) つながりカフェ TaCoLAB (2) 協働の事例集 (3) 宝塚市まちづくり推進条例の検証 3 その他 4 閉会
出席委員	田中会長、橋之爪委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、平岩委員、大関委員、山本委員
開催形態	公開(傍聴人なし)

1 開会

事務局から、本日の出席者は8名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者はいないことを報告した。

2 議事

(1) つながりカフェ TaCoLAB

ア 4月の開催結果報告・今後の開催日程

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

(ア) (会長) 開催結果について参加委員より何か感想などはあるか。

(イ) 少し狭い会場ではあるが、楽しくやることができた。また、以前参加したつながりカフェに参加されていた方とつながりができた。つながった方はイベントなどを開催する場所を探していて、それだと自分が住んでいる団地の集会室を使ってはどうかと場所を提供した。

(ウ) (事務局) その人はどんなイベントを開催したのか。

(エ) (イ委員) 子育てや音楽のイベントなど週によってさまざま。市外からそのイベントに参加している人もいると聞いている。現在はお試しとして場所を貸している。料金については自治会が協賛できる内容であれば無料とし、それ以外は有料としている。

(オ) 補足してもよいか。その女性が Threads という SNS で「集会室を使いませんか?」と発信したところ、80くらいの反応があり、コメントでも「使いたい」というコメントが多くあった。最初は無料としていたが、有料でも利用したいという人もいた。場所の需要はものすごくある。

- (カ) (次長) 自治会館など施設が市内に50ほどあるが、使い方に悩んでいるという声を聞いている。工夫をすれば、利用してもらえ、自治会の活性化にもつながるかもしれない。Win-winの可能性が見えてきた。
- (キ) 仁川にある仁川会館はそろばん教室や塾などいつも多くの利用がある。
- (ク) (次長) やはり場所のニーズがかなりある。周知さえすれば、可能性が見えてくる。

(2) 協働の事例集

ア 作業班(4/10(金)開催)の実施報告

表記について、作業班出席委員より資料に基づき報告を行った。

イ チラシ案の検討・決定

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) 工夫がされてていいなと思った。私がチラシを作るときはその立場の人に聞いてみるというのをよくやる。そういうのをやってみたら、もっとブラッシュアップできるのではと思った。
- (イ) このチラシはこれっきりではない？今後事例集を更新したタイミングなどその都度遡及していくというイメージでいいのか。
- (ウ) (事務局) 遡及自体はしていく。その際にチラシを増刷するのか、作り変えるのかはわからないが更新したタイミングなどでSNSを使って周知は行う。
- (エ) (イ委員) 私の中ではこのチラシは完成品ではないというイメージでいる。事例の数が増えたり、HPを更新したりするタイミングで変えていけばいいと思っている。今このチラシは紙ベースで考えているが、LINEやSNSではまた違うと思う。発信の仕方として、また別の形で作った方が良いと思っているので、今のこのチラシはこの時点のものという認識。
- (オ) チラシを見てから、HPを見たときに特に「協働の秘訣詰まっています」のチラシで、「活動のマンネリ化」や「深刻な担い手不足」と課題がある中でどの事例がその課題に対するものなのかがわからないので、わかったらいいなと思う。例えば、HP上の事例のところにタグ付けはできないのか。タグがなかったとしても、カテゴリーで分けるか、タイトルに入れるでも良いと思う。先ほどの説明でHP上の事例のタイトルをわかりやすいものに調整するとあるが、そうではなくて、このチラシに書いてある文言でもいいかなと思う。チラシをきっかけにHPを見た人が「この事例どれ？」とならないようにした方がいい。第一弾の方もそういった形で統一すると良いと思う。
- (カ) 事例タイトルのリンクの他にもう一つ階層を追加して「みんなの居場所作ってみた」という文言をタップするとその該当事例に飛ぶようにするやり方でも良いと思う。作業班の検討時の話し合いでは、HPでやれることには限りがあるため、その中での今回の方法になっている。
- (キ) (オ委員) タイトルに入れるだけでもかなり違うと思う。チラシの文言をキー

ワード化して、タイトルにキーワードだけ入れるでも良いと思う。キーワードについてはどこかに注釈だけいれたら良い。

- (ク) (会長) 私もいい案だと思う。HP にそういったことは可能なのか。
- (ケ) (事務局) タイトルに入れるだけであれば、可能だと思う。
- (コ) (キ委員) それで良いと思う。
- (サ) (事務局) 作業班の中で出た意見で参加委員から事例をカテゴリー分けしてはどうかという意見が出た。前回更新した事例が6個の中でカテゴリー分けしてしまうと、今後残りの事例を更新したときにまたカテゴリー分けをしなければならなくなる。そのため、今回はカテゴリー分けせず、後期でまた更新した際にカテゴリー分けしてはどうかという話を作業班でしていた。確かに、カテゴリー分け自体はあった方がわかりやすいため、後期の事例を更新した後に、改めて、どんなカテゴリーがいいのかなど話し合えたらと思う。
- (シ) (事務局) チラシについてはこの案で問題ないか。
- (ス) チラシの「ここ CHECK」の矢印が少しわかりづらいように思う。
- (セ) 矢印の位置的に二次元コードにかかっていないように見えるということだと思う。作業班ではあまり文字や情報量が多いのは良くないということで今回の案になっている。二次元コードの下にリンク先書くというのもあると思うが、あまり小さな文字があるのも良くないという話になり、できるだけシンプルに作成した。
- (ソ) (事務局) 事務局で作成した「詳しくはこちらから CHECK」という別案もある。
- (タ) (ス委員) 「事例集を見てね」というチラシなので、「詳しくは」はなくてもいいのではないか。「協働の事例集はこちらからご覧ください」というニュアンスだと思う。
- (チ) (セ委員) 作業班では文字で入れるか記号で入れるかで文字だと説明くさいよねという話で矢印にしたが、おっしゃるとおり、文字でもわかりやすいとは思う。
- (ツ) (事務局) 入れる文字は「こちらから CHECK」で良いか。それとも「協働の事例集はこちらから CHECK」の方が良いか。
- (テ) 「詳しくは」という文字を消して「こちらから CHECK」だとなんだろう？と思ってHP をのぞいてもらえるのではないか。
- (ト) (事務局) では「こちらから CHECK」に修正する。修正したデータは今週中にメール送付するため、ご意見があればいただきたい。ご意見がなければ、印刷をかける。印刷は両面カラー印刷で予定している。

ウ 周知方法

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) (次長) SNS を使った周知と先ほど説明があったが、具体的にどう周知するのか説明してほしい。
- (イ) (事務局) できあがったデータを張り付けるイメージではあったが、確かに、

今回つながりカフェの周知の際に工夫して LINE 配信をすると効果があったので、事例集の周知についても SNS 配信用に別途データを作成できたと思っている。周知チラシを作業班で作成したため、SNS 配信用についても作業班で作業できればと思うがどうか。

- (ウ) SNS 配信での周知については広報課を通すイメージか。
- (エ) (事務局) LINE については市の公式 LINE で配信予定。作業班で SNS 配信用のデータを作成し、当課で配信作業を行う。
- (オ) (ウ委員) SNS で周知するにあたり、見せ方について広報課が詳しいのであればお聞きするのもありだと思う。市の SNS に市長の動画があがっているが、お願いできるのであれば、お願いするのも一つだと思う。
- (カ) (次長) 今記載されている SNS 媒体はすべて市の公式のものになる。市の公式 LINE は各課の部署で配信ができるという権限をもらっている。そのため、つながりカフェについても当課で配信している。X については広報課が各課から依頼をもらって、事務作業をして発信している。広報課を通さずにできるものと広報課を通して発信しているものがある。X については広報課に依頼すると広報課から「こう修正してはどうか」といった感じで修正案が届くこともある。皆さんと当課とでこういう風に周知したいとなれば、基本的にはそのまま流せるイメージ。LINE に関して広報課は、関係のない情報が沢山来て登録者にブロックされることを懸念しており、その対策として分野の設定ができるようになった。SNS 配信について、皆さんの方が知見もお持ちだと思うので、ご協力いただきたい。市長からの周知については可能かまだわからないが動画を撮影してとなると少し手間はかかる。その他については出来ると思う。
- (キ) 広報たからづかへの掲載はどうか。
- (ク) (次長) 広報たからづかについては、以前よりページ数が減っており、現在載せたいと思う記事が載せられない状況にある。最初のトップページについても当課は2年連続載せられていない。載せられるかどうかは、その時の状況と、市全体の中での優先順位によるという形になってしまう。チャレンジしてみても良いと思うが、どのくらいの割合で載せたいかによって載せられる確率も変わってくる。
- (ケ) つながりカフェの LINE 配信はよかった。他の LINE 配信は情報が入ってきづらいものもある。
- (コ) (次長) そこも職員の技量によって変わってきたりする。職員も勉強しないと良いものにはならない。
- (サ) このチラシは裏表で一枚ものか。
- (シ) (事務局) そうなる。手に取ってくれた人にどっちが自分に合っているのか選んでもらいたいと思っている。掲示の際には2枚掲示していただきたい。
- (ス) (事務局) では、SNS 配信用のデータ作成については作業班で行わせていただく。前回参加していただいた委員には引き続きご参加いただきたい。日程調整

は後日行う。

(3) 宝塚市協働のまちづくり推進条例の検証

ア 宝塚市のまちづくりと協働を支える仕組み

イ 今後の進め方(フローチャート)

ウ 宝塚市まちづくり基本条例及び協働の指針の確認

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

(ア) (次長) 確認だが、今日これを皆さんに見てもらっているという意図としては、これから協働のまちづくり推進条例を見ていくにあたってその土台となっているものを知っておいてほしいということではないか。

(イ) (事務局) その認識で問題ない。

(ウ) この内容とは別に個人的な話になるが、新しく民生・児童委員になられた方にまち協に関わってもらったときに、「なんで私たちがまち協をやらないといけないの？まち協に入りたいなんて言っていない。」と言われる。そのたびに、まちづくり基本条例の説明などを行っている。「市民と市の責務」の部分が上手く伝わっていないことが多い。

(エ) 条例の説明会に行くと「なぜ市が条例を作って、市民がそこに入らないといけない？」という疑問を持つ人が多い。その際には医療や福祉の関係の団体も含めて、一つの組織だという説明をされていた。今考えると逆にそのおかげで色々な団体とつながれるというメリットもある。その意識付けが行き届いていない。

(オ) (ウ委員) 「入りたいというわけではないのに」という人は大体それを知らない。「住んでいる人は皆まち協に入っていて、民生・児童委員だからという理由で関わらないといけないというわけではないですよ。」と言ってもなかなかピンときている人は少ない。

(カ) (エ委員) 関係団体の総会などでこのまちづくり基本条例の話をするべきではないか。

(キ) (ウ委員) そう思う。研修会など色々とやっている。その時に行って話をしてもらえたら個別に話す必要もなくなるのではと思う。このまちづくり基本条例の資料を配ろうかなとも思う。事前に説明することで理解が変わるので、入り方も変わるのではないかなとも思う。理解していないままだとどうしてもやらされている感が出てしまう。PTAの方も同様。もう少し理解してもらえたらいいのになとも思う。

(ク) (会長) 出前講座も結構行っているのか。

(ケ) (次長) 市のあらゆる施策について、説明してほしいと言われたら、市はさせてほしい。どのようなものがあるのか分かるように毎年一覧を作成しているが、なくても説明してほしいと言われたら担当部署が行って説明させてもらう。民生・児童委員を含め、市民にまち協や自治会、まちづくりとは何かについて説明してほしいと言われれば、させてもらいたいと思う。一つ話を聞いていて思ったのは、

自治会の会長の選出もくじ引きでしているところがあるというのを聞いている。民生・児童委員にまち協に関わってもらう際も、一定説明はしていると思うが、それが代替わりした際に引継がれていないのだと思う。そのため、市としても協働の指針などを周知していったが、なかなか手にとってもらえないというジレンマも抱えているので、機会があるのであれば、説明させてもらいたいと思っている。

- (コ) (ウ委員) ぜひ、お願いしたい。わからないと言われ、説明することを何度も繰り返してきた。総会などで話をしてもらって、民生・児童委員だけじゃない、他の人もそうなんだということを知ってもらおうというところからいかないと、と思っている。
- (サ) (次長) 協働のまちづくり推進条例の前のまちづくり基本条例というところで、これも理念条例になる。市民と主体的にまちづくりに取り組むことは理念であり、理想であるが、主体的にとはいったい何かというところはあると思う。そのために協働のまちづくり推進条例も策定しているが、「自分たちのまちのまちづくりは自分たちでやろうよ」という、義務でもあるが、権利にもなっている。いつでもだれでもまちづくりに入っていけると言うことだと思う。それを大言しているのが、まち協。関わろうと思えば、関われるのがまち協だと思う。当初は民生・児童委員も納得して入ってくれたと思うが、それが薄くなったり、当て職で PTA になったりすることで衰退していったと思う。市民協働推進課で説明会を開催してもなかなか人が集まらないので、集まりの場所に行って話をさせてもらえるのはこちらにとっても有難い話だと思う。
- (シ) (ウ委員) 呼ぶためにこっちで働きかけをしてということか。部内で調整ということではないのか。
- (ス) (次長) 例えば民生・児童委員の集まりがあるのであれば、その日程を課内で調整することになる。都合がつかなければ、別途調整が必要になる。
- (セ) (ウ委員) 来てくださいねというアクションはこちらが出さないといけないということか。
- (ソ) (次長) そうなる。
- (タ) 協働の指針の 14、15 ページに民生・児童委員は中間支援団体と書いてある。まち協への関りは中間支援組織団体としてということになる。
- (チ) (ウ委員) そうなっているが知るきっかけがない。説明をちゃんとしてほしいなと思っている。
- (ツ) まちづくり基本条例や協働のまちづくり推進条例を策定してきて、今回 1 枚にまとまっているが、これは AI がかかっているのか。
- (テ) (事務局) かかっていない。
- (ト) わかりやすく書いてあると思う。ここに書いてあることを認識しなかったら、協働の話をしてもわからないと思う。
- (ナ) 企業からも「まち協は自治会と同じでしょ。」と言われることがほとんど。「地域

で活動しているが、自治会じゃない。」と言うと「じゃあ何？」となる。

- (ニ) 規定されていることをしっかり理解しておかないと勘違いが生まれる。話が通じなくなる。
- (ヌ) (次長) 今の協働のまちづくり推進会議ではつながりカフェを行っているが、前身の協働のまちづくり促進委員会では協働の指針の説明会を年に2回ほど行っていた。なかなか浸透していないという課題はあったため、開催していたが、理念を広めるのはすごく難しい。協働の指針の説明会をやりますだけだと人がなかなか集まらないため、良い事例の講演会と一緒に行っていた。コロナ禍で止まってしまってから、再開しようとなった際に第1期で話し合いを行い、説明会も大事だが、やりたいことを自由に話せる場の方がいいというところでつながりカフェが生まれた。まちづくり基本条例や協働の指針について浸透していないという課題は今も感じているが、そこに労力をさけていない状態であるため、機会を設けていただけたら非常に有難い。
- (ネ) (事務局) 今思ったのが、市として説明会を開いたときに来てくださる人は、ある程度意識を持った人なんだろうなと思う。意識のない方に市民の責務を押し付けるとするのも難しいかなと思う。そういった人にどう広めていけるかを考えたときに先ほど話のあがった民生・児童委員の集まりなどのこの人には知ってほしいという人がいる場がいいのかなと話を聞きながら思った。第一地区の民生・児童委員からちょうど出前講座の依頼があった。まち協や自治会についての話が聞きたいとのことだったが、話をお聞きしてまちづくり基本条例や協働の指針の話も交えて説明をした方がいいと思った。
- (ノ) まち協の人のどれくらいの人がこの話を理解しているのか。
- (ハ) あまりできていないのではないか。
- (ヒ) (事務局) 今まで出前講座でまち協の話はしたことがあったが、まちづくり基本条例や協働の指針などに関連付けてお話ができていなかった。
- (フ) そもそもところで、市民と市の責務が理解できていないと、色々と勘違いが生まれてしまうなと思う。市民が何をしないといけないのか、そのための組織であり、こういうツールがあるというのがわかればいいのではないか。
- (ヘ) (次長) 私が異動してきてから、同じ話を聞いている。まち協の認知度がなかなかあがらないというのは今後も大きな課題である。話をしていけないといけないところだとは思っている。説明させてと言ってもなかなか聞いてもらえないので、そこをどうしたら聞いてもらえるのかになる。昔はたからづかフェスタで市民協働推進課としてまち協をPRするためのブースを設けたりしていた。どう広めていくのかについて話をするのも審議会の役目だと思っているので、そういった話もできればと思っている。
- (ホ) 私自身もこの仕事に就くまでまち協のことは知らなかった。意識付けが大事だと思う。
- (マ) 私も理解ができていなかったもので、今回の話と資料で再度勉強しようと思う。私

もこの仕事をしていなかったら絶対わかっていなかったので、その差をどう埋めていくのかというところで、少しでも関わりたいと思っている人とどちらに声を掛けていくべきなのかなと思う。

- (ミ) 市民の責務のところをどれだけ市民にわかってもらえるかというところで、まち協や地域活動に関わってくれる人が変わってくると思う。地域活動に関わるきっかけとしてまち協があれば入口はしっかりしているので、まずは理解をしてもらえればと思う。どう周知していくかというところだと思う。
- (ム) 周知については、市の責務だと思うが、周知する場には市民の立場の方がいてくださった方が浸透しやすいと思うのでご協力いただきたいと思う。
- (メ) (会長) わかりやすい資料があるだけで違うと思う。紙芝居などもあるといいのではないかな。

3 その他

4 閉会

以上